

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号		
自己評価作成日	平成24年5月27日	評価結果市町村受理日	平成24年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族と協力して 行事(イベント)と一緒に準備開催、カンファレンス、外出、散歩、入浴など一緒に支え合い支援していく</li> <li>・運営推進会議</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年6月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経営母体は(株)カームネスライフで「よりよい地域福祉の実現」を理念に掲げ、地域に根ざすグループホームを目指して、大阪府と尼崎市に17箇所のグループホームを運営している。当ホームは加島地域内で2番目として平成22年3月1日に開設した。建物はモダンな明るい設計で細かい箇所に配慮のある使いやすいホームである。毎日の生活に変化をもたらすように年間を通じて多種多様のイベントや書道や生け花、手品等のサークル活動を組み入れている。利用者は活動に参加することによって季節感を感じ、作る喜びの中で達成感を感じている。家族からの評価、信頼度も高く、行事の度に家族の協力がある。運営推進会議では半数以上の参加者があり、利用者、家族、職員はお互いに気遣い合う良い雰囲気がある。医療と介護は、24時間体制の支援が構築されて充実して安心である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に掲げ会議やカンファレンスなどで迷ったときなどは振り返るようにしている。	法人の理念を玄関や目につく場所に掲げている。職員会議やカンファレンス時などで話し合い、日々の業務の中で理念を共有しているが、事業所独自の理念はまだ出来ていない。	法人の理念そのままではなく、地域密着型サービスの意義と役割を考慮して、事業所と地域との関係性を重視した、現状にあった事業所独自の理念を作り上げることが期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて地域代表者に教えていただき地域の運動会・防災訓練・盆踊りなど参加している。町会と公園掃除・保育交流・近所への外食など日々の交流も昨年より増えている。	町会に入会して、月1回ある公園の掃除の参加や地域の運動会、防災訓練、盆踊り等に参加して日常的に交流を図っている。今後は地域住民の一員として、事業所から情報発信を積極的にもつよう考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所力として一緒にイベント参加にとどまり貢献まではできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多数のご家族が参加され「力」を入れている。昨年の課題を踏まえ看取りや職員が取り組んだ事(研修)など一方的な報告会にならないよう「話し合える場」を意識している。	会議は年6回、地域包括支援センター、町会長、民生委員、家族、職員の参加で開催している。事業所から活動報告、行事報告など説明をして、参加者からは活発な意見、要望などあり、双方向的な会議が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあれば問い合わせている。市内に4事業所があり代表で担当者が問い合わせていることもある。	申請手続きや介護保険改正等で解らない事があれば介護保険課へ出向いて、話し合いや相談の機会を持つように努めている。区のグループホーム連絡会にも出て、地域包括支援センターからの情報など取り入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスで行動制限にならないか・・・など話し合い理解確認している。玄関施錠含め管理者・ケアマネから日常の中で具体的なケースを挙げ制限をしないケアに向け説明している。	職員は研修で身体拘束によって、利用者が受ける弊害は良く理解しているが、家族の意見も聞き、玄関やリビング横のウッドデッキ出入り口は安全確保の為に、鍵の施錠は状態化している。	利用者個々の外出の傾向を把握し、安全を確保しつつ短い時間から開錠を試み、時間をかけながら日中は鍵をかけない方向へ開錠状態を拡大する工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	話し合う場にて ①通報義務のシールについての説明 ②日々の声かけなど振り返る ③セミナー参加したスタッフからの報告会などの実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分な知識とは言えない、活用までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改正時 十分な説明をしている。 改正時には法人で統一した書面にて理解を図るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・定期的なご家族と面談(ケアプラン更新時期) ・運営推進会議に多数ご家族参加のため意見・要望を伺う 窓口を広げる姿勢を意識している。	家族の訪問、運営推進会議の出席、行事参加などで大きな協力があり、活発な意見、要望を表せる機会が多く、そこで出された問題は其の後の運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者と事業所職員での食事会 ・事業所職員間での食事会 ・職員会議で意見が出やすいようアンケート作成 など聞く機会を設ける努力をしている	職員会議の前にアンケート用紙を配布して、職員からの意見、提案などを出しやすいようにしている。管理者は年2回、個別面談を行い、職員個々の業務内容や介護の悩みを聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設研修へ全職員実習・法人内・外研修など 可能な限り受けている。 またその内容や職員が感じたことを運営推進会議で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会や入、退居時に関わられた事業所と 連絡を取るようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にセンター方式シートの記入をご家族へ依頼などまずできることから安心につながることを意識し努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能であれば無理のない程度に来館していただき一緒に考え話し合っていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご本人・ご家族の希望に添うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	病院・施設でなく「家」で普通の暮らしと一緒に支え合う関係を念頭においている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスへご家族参加していただくよう協力依頼し 入居以前の生活など教えて頂き一緒に考え、より良い暮らしになるよう関係に力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・センター方式のシートを活用している。 ・昨年よりは大切にされていた友人の来館や場所への外出が増えている。	本人の行きたい所、したい事の希望をケアプランの中に入れて、百貨店で買い物、馴染みの店での外食等、その希望の実現に向けた外出支援をしている。家族や知人への電話や手紙などの連絡交流の支援もしている、	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握した上で買い物や外食など一緒に行けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	限られた方しかできていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時はもちろん 希望や意向の把握について各担当職員が中心となり伺い→ケアマネへ相談→カンファレンス開催など体制をつくっている。	センター方式のシートを活用し、居室担当者が中心となって、本人の思い、意向の把握に努めている。困難な場合は家族の話を参考にして、話の対応の中での、表情で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・センター方式にての情報 ・ご家族 カンファレンス参加協力にて入居以前の生活を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方 心身状態は把握しているが有する力の把握は劣っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスと各担当職員が状態変化やケアで問題があった場合 すぐカンファレンスなど開催する体制にしている。(ご家族への参加依頼も常に呼びかけている)	週1回のカンファレンスを行い、利用者、家族とも話し合い、利用者に必要な支援を盛り込んだ具体的な介護計画を作成している。見直しは3ヶ月ごとであるが必要に応じて行い、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化や気づきなど介護記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出プランなど限られた内容での前進はあるが多機能化まで至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られた資源しか協働できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医・ご家族・事業所と面談を実施し希望や意向を伺い納得した医療を受けられる支援をしている。	かかりつけ医は本人、家族の意向を尊重して、これまでの医療機関としているが、話し合いで協力医療機関へ移行する場合もある。看護師も常駐し24時間体制の支援が構築され、適切な医療支援ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており常に相談ができる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が交代で面会に行くなど病院関係者と連絡が取りやすい関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医とご家族・事業所で面談をし希望や意向を現段階で伺っている。運営推進会議で議題に数回挙げご家族同士の意見交換をしたり 実際の看取りの経験を許可を得て話したりしている。	重度化や看取りについて、事業所の指針と同意書を作成し、同意を得ている。重度化した場合の対応について、早期から関係者間で話し合いを行う必要性を、協力医療機関から提案されて、年1回の個人面談を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的でないが行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練・点検の実施 地域の防災訓練に参加している	消防署の協力のもと年2回、避難訓練、避難経路の確認、消火器の扱い方等を行っている。スプリンクラー、火災通報専用電話機の設置や備蓄の準備は出来ているが、地域との協力体制の具体化までには至っていない。	災害はいつ起こるか分からない。防災計画や訓練は最悪の事態を想定して、実行性のある体制作りをし、年間を通じ繰り返し行う訓練の実践的な取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの対応について尊厳を意識し対応している。誇りを損ねる言葉かけがあれば指導している。	職員会議やカンファレンス時にプライバシー確保について話し合っている。職員は言葉かけ、態度、かかわり方は本人を尊重した丁寧な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員が意識し思いや希望を引き出すようにしている。また担当職員と外食や外出に行くよう体制を取り 聞き取りやすい時間をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	100% 18名の方の望ましい一日にはなっていない(職員の休憩時間確保や業務の流れ)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援できている(ご家族の希望や意向がある)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせた食材の大きさ調理方法をしている。食事が進まない方には食器の工夫やパン食へ変更など対応している。準備・片付けは限られた方しか一緒にできていない。	食材は外注サービスを利用し、職員が調理をして、利用者は個々の力を活かしながら配膳、後片付けを行っている。利用者から希望などを聞き取ったアンケートを参考にして、毎月1回の献立会議に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に摂取量を把握できるようにしている。習慣から食事形態を個人に合わせ対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かしてトイレ誘導としている。 希望 訴える力が残っておられる方が多い。	職員は利用者個々の排泄パターンを把握して、出来るだけトイレで排尿、排便ができるよう適切な個別誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・看護師が常勤のため相談コントロールしている ・牛乳、ヨーグルトなど個々で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所が決めた曜日で支援している。 時間帯や長さは希望によって合わせ配慮している(入浴剤などで心地よく入るなど)	基本は週3回であるが、本人の希望に添った入浴支援をしている。入浴ごとにお湯は新しく変え、気持ちよい入浴ができる。浴室は2方向介助できる浴槽で、安心して入浴出来る。手すりを多くつけるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣・体力面・同じ姿勢での辛さ(車椅子)など配慮し対応している(ご家族意向も参考)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用までの理解はできていない 看護師が身近にいるので薬のことや錠剤・粉砕など支援の方法や症状の変化など都度相談できる環境である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を通じて洗濯たたみ・新聞をとり各階へ・献立書きなどケアプランに導入している。 コーラスの趣味や「食」への楽しみなども同様個々で対応し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の希望にその日が添えない日もある。 週間的に買い物や理美容など希望に添えるようしている。またご家族の協力を得て定期的に外出もしている。	四季の移り変わりを感じてもらうように、天気のよい日には利用者の体調をみながら、近くの神社、お寺、公園、買い物に出かけている。出来るだけ外気に触れるように、ケアプランに組み込まれた外出支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々買い物などで使用できる金額は家族と話し合い決め事業所で管理している。中には希望にて個人でお金をもっておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	限られた方にしかできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設感が出ないよう普通の暮らしを意識している。	共有空間の玄関はゆったりとした広さで、リビングの天井は高く、両面はガラスで採光も十分取り入れられ明るい。居心地よい談笑のコーナーも設置されて、廊下の壁には利用者の作品や思い出の写真が飾られ、ホーム全体は清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内を自由に(1F⇄2F)過ごされているも共用空間内の居場所確保が乏しい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力で自宅に近い環境にしている。 (好みのもの 使い慣れた家具)	家族の協力を得ながら入居前に自宅で使用していたタンス、椅子、テレビ、仏壇、趣味の置物などが持ち込まれ、従来の生活の継続性が確保されている。自宅とのギャップを感じさせないよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	中庭やベランダなどの工夫が不十分 (計画→実行するも自立した生活への工夫にはつながらず)		